

# 龍雲寺ダンマトーク

共催：東京禅センター

演題

## 『絵解き涅槃図 お釈迦様 最後の旅』



講師

絵解き師・寺庭婦人

岡澤 恭子氏 (おかざわ きょうこ)

昭和44年愛知県生まれ。

平成5年立命館大学大学院日本文学研究科博士前期課程修了。

平成8年、仏縁により長野市長谷寺(真言宗)に嫁ぎ、平成10年、長谷寺所蔵の大涅槃図(江戸時代)の修復を機に絵解きを復興。以来、絵解きの第一人者として、真言宗智山派総本山智積院(京都市)にて毎年絵解きを実演する他、長谷寺を中心に、各宗派本山、全国寺院での法要(涅槃会・施餓鬼会)や、各宗派の僧侶の講習会、檀信徒研修会、寺庭婦人会、老人会、公民館、各種教育機関等で絵解きをおこない、全国で活躍。

日時 平成30年1月27日(土)

15:30開演(90分) ※15:00開場

場所 龍雲寺本堂

料金 入場無料 要予約  
(定員 100名)

※お申し込みは、東京禅センターホームページ又は下記の申込書にご記入後、東京禅センターにFAXしてください。

東京禅センターでは催事案内のメールマガジンを配信しています。ご登録は左のQRコードから。またはホームページより。



【東急東横線】学芸大学駅 徒歩15分  
【東急田園都市線】駒沢大学駅東口 徒歩15分  
【東急田園都市線】三軒茶屋駅 徒歩20分  
※渋谷駅・目黒駅・中目黒駅より【野天龍園寺】行きバス運行中

### 【龍雲寺ダンマトーク FAX 申込書】

本状を切り取らずに、そのまま送信してください。

FAX 03-5779-3801

TEL 03-5779-3800

お名前

フリガナ

TEL

参加人数

名

# 釈迦涅槃図絵解き 資料

岡澤 恭子

## 絵解きって何？

絵解きをお聴きになったことがありますか？

「えとき」って何でしょう。絵解きとは、絵の内容を分かりやすく解くこと。絵解きの歴史は、実はとても古いのです。

絵解きははるか昔にインドで始まり、やがてシルクロードを通して中国・朝鮮半島・日本へと伝わってきました。すでに平安時代には日本で絵解きが行われていたことが記録に残っています。初めは皇室や貴族を対象に、高僧が、お釈迦さまや聖徳太子の絵解きをしていました。が、鎌倉時代以降、「絵解き師」と呼ばれる専門職が生まれ、お寺や神社の内外で一般の人々に向けて様々な絵解きがなされるようになり、絵解きはおおいに盛んになりました。

絵解きの種類も多くなり、お釈迦さまや弘法大師などの宗教的偉人の話に加え、<sup>ほけきょう</sup>法華経などのお経を分かりやすくしたもの、地獄絵、各地の寺社の由来など様々な絵解きが生まれました。さらに、英雄を題材にした軍記ものや、物語・伝説をもとにした絵解きも生まれ、絵解きという芸能は隆盛を極めました。室町時代から江戸時代にかけて日本中に広まった熊野信仰は、<sup>くまのびくに</sup>熊野比丘尼と呼ばれる女性宗教家たちが、まさに絵解きの力によって広めたものでした。

当時、文字の読めない人々、仏教的知識のない人々にとって、絵解きは、娯楽であるとともに宗教への入り口、信仰への入り口であったことでしょう。例えば、日本各地にあった地獄絵の絵解きでは、「悪いことをすればこんな地獄へ墮ちるよ」と繰り返して伝えることで、聴き手の心の中に、人としての倫理観や素朴な信仰心がはぐくまれました。ですからよく子どもに向けて語られたのです。それは共同体で子育てをするひとつの智慧だったのでしょう。同様に、古くから親しまれた「釈迦涅槃図」の絵解きでは、聴衆は、お釈迦さまが入滅される場面をありありと眼前に描き、その死の光景に涙し、まるで今お釈迦さまからご遺言を聞くように、その教えを聞いたことでしょう。もはや文字や教養や仏教的な知識は全く関係なく、誰でもその時、お釈迦さまに出会ったのです。そして知らず知らずのうちにお釈迦さまの教えを、いかに生きいかに死ぬかという仏教の死生観を、深いところで学んでいたのです。絵解きとは、このような役割をも持った宗教的な芸能のひとつでありました。

しかし、他の民間芸能と同じように絵解きも、明治の<sup>はいぶつきしゃく</sup>廃仏毀釈や戦後のテレビの普及など時代の波に押されて次第に廃れてゆき、わが国の絵解き文化はついに衰退の一途を辿りました。現在ではあまり知られなくなってしまったこの絵解きという文化を、人間の智慧を、何とか後々に伝えたいものと願い、お絵解きをさせていただきます。